

皆さん、この暑さをどのようにしのいでおられますか。ヴォーリス六甲山荘でスタッフをしていると涼しくていいのですが、下界へ降りると暑さが一層こたえます。

お知らせ

- ・送り火の会 8月16日(月) 駒井家住宅
- ・創立10周年記念コンサート 8月24日(火) 出演・アンサンブル・アメニティ 会場・兵庫県立芸術文化センター
- ・創立10周年記念 神戸国際ワーキングホリデー 9月1日(水)~6日(月)
- ・創立10周年記念講演会 10月9日(土) 講演・河合雅雄氏、山極寿一氏 会場・関西学院中学部講堂
- ・ヴォーリス建築文化全国ネットワーク全国大会 10月16日(土) 北海道北見市

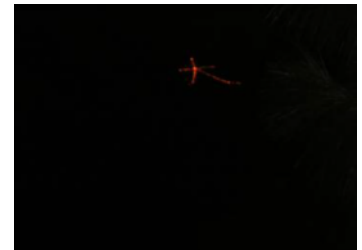
予告1***京の夏の風物詩~駒井家住宅で見る送り火~*****<会員限定企画>**

五山の送り火は先祖の霊を送る宗教行事ですが、今では祇園祭からはじまる京都の夏のクライマックスとして観光客を集めています。昨年好評だった駒井家住宅で送り火を見る会を今年も日本ナショナルトラストと共催で開催します。駒井家の2階からは「大」の字が間近に見え、風向きによっては煙のにおいまで感じられるほどです。京都の文化について三村浩司京都大学名誉教授のお話も伺います。この機会に駒井家を訪れてみませんか。

日時 8月16日(月)午後6時半**場所** 駒井家住宅**参加費** 2,000円 希望者にはお弁当を実費(750円)で用意いたします。**定員** 20名(締切・8月13日 ただし定員になり次第締め切ります)

お申し込みの際にお弁当の有無をお知らせください。

昨年の送り火

**創立10周年記念 神戸国際ワーキングホリデーを成功させましょう!**

9月1日(水)から6日(月)にかけてヴォーリス六甲山荘を中心に開催されるワーキングホリデーですが、参加者はほぼ出そろいました。イギリスから1名、韓国から1名、台湾から3名、日本から3名(うち留学生1名)です。

このワーキングホリデーの実施に関して会員の皆さんにご協力をお願いします。

スタッフとしての参加・・・生活面での世話係(食事等) 通訳

交流会への参加・・・9月5日(日)の夜 神戸女学院のケンウッド館で行います

カンパ・・・海外からの参加者の滞在費は負担を軽くするため、1万円としています。これをカバーするため、協会から支援する予定ですが、皆さんからのカンパもよろしく。

記念コンサート・チケット販売のお願い!

7月号でもお願いいたしました。8月24日(火)の創立10周年記念コンサートについて、チラシとチケットを会員の皆さまにお送りしましたところ、お蔭さまで大勢の方からお申し込みをいただきました。現在約250名のご予約が入っています。定員が400人ですので、あともう一息という感じです。どうしようかなと迷っておられる方、ぜひご参加ください。

ホールを満員にして、コンサートを成功させましょう!

予告2**創立10周年記念講演会**

10周年記念行事の第3弾、記念講演会を次のように開催します。

日時 2010年10月9日(土)午後2時**講演** 河合雅雄京都大学名誉教授

山極寿一京都大学大学院理学研究科教授

場所 関西学院中学部講堂**題** 自然と共生社会

生き物から人間の未来を考えるー

参加費 会員・会員紹介・学生1,000円 一般1,500円**後援** 朝日新聞社

霊長類の研究で世界的に活躍されるお二人による講演と対談によるひと時です。またとないこの機会にぜひご参加ください。

ご報告1 第7回園遊会 7月24日(土)25日(日) ヴォーリス六甲山荘

梅雨明け直後、さすがの六甲山でも暑さが感じられる2日間でした。六甲山荘には会員のアート作品、フラワーアレンジメント、写真が飾られました。音楽演奏は高井和代さん(会員)のフランスシター、田村恵子さんと松田崇弘さんのアルパ&ギター。いずれも普段は目にする事の少ない楽器での美しい演奏でした。来場者の皆さんは音楽とお茶とケーキを楽しみ、山荘のさわやかな風を楽しんでおられました。昼食にはピゴのサンドイッチを用意しました。スタッフの皆さん、お疲れさまでした、そしてありがとうございました。 来場者40名



【コラム】

事務局の仕事

清水 順子

毎週水曜日の午後、西宮北口のさくら荘(草志舎の裏側)にある事務所で数人のメンバーがいろいろと雑事に取り組んでいます。会計の処理、リーフレット類の作成、アメニティ便りなどの発送、などなど。文字にすると簡単ですが、それぞれこまかな作業を伴う仕事です。400名近い会員を擁する会として、年間をとおしてコンスタントに活動をしている会として、避けてはとおれない雑事です。それを毎週欠かさず集まっては片づけているのです。

会計についても総会でご報告しましたが、新しくNPO対応の会計ソフトを導入することになりました。将来私たちの会がどの方向に進むにしろ、どんな監査に対しても対応できるようにするためです。これまでの単式簿記から複式簿記に変わるため、その移行のための処理を会計処理スタッフが数か月にわたって頑張ってくれています。

皆さんのお手元にアメニティ便りやご案内が届く時、こうした事務局スタッフの努力を思い出してください。またお時間があるときには、さくら荘102号室にお顔を出してください。お待ちしております。

おしゃべりアラカルト

遠くて近い国 アイルランド

五十嵐 政二(団長)

陰鬱な気候に寒さ、イギリスに収奪された荒畑にジャガイモ、20年ほど前にスコットランド、イングランドを旅行したときもそんな感じを持っていたのでアイルランドは素通りした。でも高校時代に接したバーナードショウやスイフトに惹かれてどんなところかと参加してみた。

北アイルランドを含めても、北海道ほどの広さで高い山でも六甲山よりずっと低い700m台、他のヨーロッパの国のような森林はほとんどない、しかも国土の14%が泥炭地という。全人口は兵庫県よりやや少ない。バスの窓から見渡すと一面の緑の絨毯の牧草地、牛や羊のんびりとやすんでいる。家が点在し、牧草地は低い石垣で仕切られている。そして何よりも暖かい。メキシコ暖流のせいで冬でも氷点下になることはめずらしいという。

今回はナショナルトラストの旅ということで自然遺産、古い城館、教会を主に訪ねた。

アイルランドの古い教会はカトリックだったため攻め込んだ来たイギリス軍によって徹底的に破壊され、ほと

んどが廃墟になっていた。それに対して古い城館は残っているものが多かった。私たちは、今はホテルになっているその一つに泊まり、古の城主になった気分を十分に味わせていただいた。

訪ねた世界遺産は2つ：

ジャイアンツ・コーズウェイ

北アイルランドの北端付近の海岸に、直径30-60cmで5-8角形の奇妙な岩の柱が4万本以上もあり、まるで地中から生えてきたかのようにニョキニョキと立ち並び、壮大なる石階段になっていた。奇妙な六角形の石柱は、「柱状節理(ちゅうじょうせつり)」と呼ばれるもので、玄武岩質の岩石が、マグマが冷却固結したり、地殻変動がおきたときに垂直に発達したものなんだそう。まさに、地殻変動と氷河が生み出した芸術作品なんだ。

ブルー・ナ・ポーニャ(ニューグレンジ)

高さ10m余り径100mにも及ぶ巨大な円墳で中はアーチ型の天井と十字架のデザインの通路を持つ世界でも最も古い(5000年以上も前の)建造物で、入り口の上にある小さな窓から冬至とその前後の数日間のみ、夜明けとともに光線が内部に通路に差し込むように設計さ

れている。これは冬至から日が長くなることから再生を意味するという。また通路を女性器に光を精液とみなし、新しい生命が生じるのを祈る意味だとも言う。ストーンヘンジやカルナック巨石文化とつながるものだろうか。

アラン島へ渡るまでのバスの道の側を2 - 30人の中学生が列になって歩いていて、2週間のアイルランド語の合宿に来ているとのこと。アイルランドでは国語はアイルランド語だが、実際には話す人は少なく、この言葉が多く残っている西部に研修にくるとのこと。まだ合宿が始まったばかりで列も男子生徒が先、女子生徒が後だったが帰る頃には男女肩を並べて歩くのが少なからず出てくるとのことには微笑ましく感じた。

食事は、すべてがおいしかった。とくにラム（でも牧草地で生まれて間もない子羊がたわむれているのを見ると食べるのは胸が痛んだ）。そして新鮮なサーモン、ゴールウェイでの生カキ、ダブリンのオマール（食べられなかった人ゴメンナサイ）。主食はジャガイモ、でも畑はほとんどみあたらなかった。

さすが世界3位の飲酒国というだけあってどこへいってもPUB、Bookmakerがやたら目についた（わたしだけ？）旅行中食事中にはGuinnessのお世話になることが多かった。ダブリンなどはどこへ行ってもGuinness、Guinness。延泊した最後の日にはGuinnessのstorehouseへ行ってきた。アイリッシュウイスキー発祥の地として知られるBushmillsの町にいったが蒸留所には寄らずじまい、いささか残念でした。

アイルランドは若者の国、30台以下の若者の率が非常に高いという。しかも軍は志願制で、もっぱら平和活動に専念することと若者がのびのびしていた。そのせいか人口増加率が世界で最も高い国とか。未来に光りあれ！

アイルランドの人たちには音楽やダンスが生活の一部になっているが、残念ながら伝統音楽を聴く機会はなかった。ロンドンデリーの町で民謡のCDを買おうとしたが、専門店でもロンドンデリー（北アイルランドの州の歌）のCDもないといわれた。新しいエンヤやU2などのCDばかりでした。

ベルファストで、一夜アイリッシュダンス（オールドスタイルステップダンス）を見に行きました。腕の動きをなくして複雑なリズムパターンでのタップダンスでした。これは16世紀にイギリスの支配が始まり、アイルランドの伝統的文化活動が一切禁じられ、ダンスもシビアに厳しく禁止されたので、外を見回ってるイギリス兵に窓越しに見られてもいいように上半身を全く動かさずに、踊っていたのが始まりだそうです。

すっかり晴れ上がった天気（1年に200日小糠雨が降るといわれるアイルランドで）、いいお仲間、何を聞いてもすぐ的確な返事が返ってくるガイドさん、そしてなによりもおいしい食事、それにすばらしいスケジュール。本当に楽しい8日間でした。

アイルランドはぜったいおすすめ。ただしお天気はあなたの心がけ次第！

* 肝心のナショナルトラストのことについて書けなかったのはゴメンナサイ！！



クラウン・バー（NT）にて乾杯！

奇観と奇岩の旅・アイルランド

貴島 照代

今回の「第5回ナショナル・トラストを訪ねる旅」は城館巡りというよりも石をめぐる旅というのがぴったりでした。氷河期と火山活動で形成されたという六角形の石柱で埋め尽くされた世界遺産の海岸、スリル満点の吊り橋はまさに奇観。夜は由緒あるパブでのアイリッシュ料理とアイリッシュ・ダンスも堪能しました。

後半はアイルランド共和国に入りましたが、ここでもアラン諸島のイニシュモア島で90Mの断崖絶壁に立ちすくみ、エジプトのピラミッドよりも古いという世界遺産の古墳ニュー・グレンジでは穴の中の不思議な空間に身を置きました。修道院跡やケルト十字架が残る遺跡は初期キリスト教の歴史を伺えます。また1840年代のジャガイモ飢饉のために海外へ移民して行った人びとの廃屋の石積みの壁がそのまま放置されています。石を砕き海藻と混ぜて土を作ることで、ジャガイモ畑の畝が今でも残っていることなど、連絡船の待ち時間に見せていただいた映画「マン・オブ・アラン」の厳しい生活の様子と重なり切ない思いでした。

望郷の思いや信仰の力など世界に移り住んでいるアイルランド人の原点はここにありといったところでしょうか。移動するバスから眺める山々もエメラルドの国というキャッチ・フレーズどおり美しい緑ですが、大きな木は少なく氷河期の爪跡のゴツゴツした岩肌を露出しています。どれもこれもキーワードは《石》です。

4日目に宿泊したのはこじんまりした古城をホテルとして営業しているもので、ロビーや食堂、各部屋の造りがとてもステキ。部屋で時間を潰すのはもったいないとばかりに建物中をくまなく探検してまわりました。せからしい日本人ですねえ！

参加者は16名。バスの二人掛けシートに一人ずつ座ってちょうど空席なし。添乗員の荒木さんが“人数を数えやすい”と笑っておられました。団長の五十嵐様が挨拶で述べられたとおりに、病人・怪我人がなく、大きなトラブルもなく全員和気藹々と楽しむことができました。みなさま有難うございます。



スリル満点の吊り橋

キャリック・ア・リ・ド

六甲山荘だより

7月の六甲山荘

梅雨があけ、六甲山上もさすがに暑くなってきました。作業していると汗をかきます。気温は27度。山荘としては「暑い!」という感じです。でも同じ日下界では35度くらいだったのですから、やはりましですね。それに風のさわやかなこと! 皆さんもぜひこの風の味わいを体験しにおいでください。



石窯づくり

駒井家住宅ニュース

7月の駒井家住宅

駒井家住宅の前期の公開は7月10日(土)で終了しました。3月5日から通算38日、来場者総数は780名。一日平均20.5名です。迎えるスタッフは日本ナショナルトラストのスタッフもふくめてのべ164名、一日平均4.3名でした。

夏休みの間も庭の手入れや掃除をします。また団体見学や撮影などもはいつて、結構忙しいのです。スタッフの皆さん、御苦労さまです。



私たちの手でヴォーリス六甲山荘を育てましょう!

ヴォーリス六甲山荘募金報告(目標金額2000万円)

6月の募金状況 42,500円<累計8,488,749円(580名から1,512口)>
会員 42,500円(10名から8口)<累計4,457,270円(394名から888口)>
一般 0円 <累計3,157,345円(191名から629口)>
一般団体 0円<累計81,000円(5団体から16口)>
その他 0円<累計793,134円>

振込口座・郵便局 00950-5-36168 アメニティ2000協会